

高校の現場では動画をどう使う？

How are videos used for learning English at high school?

鈴木 久実

東京都立桐ヶ丘高等学校

Abstract

This article reports how high school teachers use videos or DVDs in their English class. There are some articles which recommend using DVDs for improving students' conversation abilities and listening comprehension. However, without continuous use of videos or DVDs, such improvement would not be expected. We will show some problems when we try to use movies in our class at high school, and present some examples of showing movies to students as a feedback of the lessons.

キーワード： 動画, 動機付け, フィードバック,

科目名	英語 I、異文化理解
対象者とクラス人数	都立深川高等学校外国語コース (各学年2クラス)
学習の目標	自分の英語によるパフォーマンスや学習内容についてフィードバックを行うことにより、次のステップへの学習意欲を高める。

1. はじめに

この実践報告は、2006年度第8回「TALK TIME」で、私が話題として提供した「高校の現場では動画をどう使う？」と、その具体例として実践報告をした、東京都立深川高等学校教諭柴田真由美の「英語 I (b) における映像資料の活用について」をもとに、高等学校の英語の授業における、動画の扱われ方とその困難な点、問題点を整理していく。

2. 映画を見て会話表現を身につけるには

映画を見せて、会話表現を身につけさせ、リスニング訓練をするといった、DVD の活用法について書かれているものをよく見かける。松岡博信(2006) は、生徒の興味・関心を惹きつけるような比較的最近の映画を利用し、面白くかつ会話表現学習に適した映画を選ぶよう助言している。松岡は、DVD の音声と字幕の組み合わせを活用、会話で常用される決まり文句や句動詞の学習、生の英会話の発音、会話の機能別表現といった DVD の実用例を紹介している。音声と字幕の組み合わせの活用例として、ディクテーションを紹介しており、次のように述べている。

「映画を使つてのディクテーションは、単語レベルの書き取りにとどまるのではなく、文レベル、談話レベルの発音になれるという目的を持つことが肝要である。それは、消失、同化、縮約、連結などの英語の音変化に耳を慣らせるためである。」 映画を使う利点として、単語レベルでなく、もっと大きなレベルで聞き取り、英語の音に慣れさせるというのである。

しかし、ここで考えなければならないのは、それだけの成果を上げるには、投げ込みで時間つぶし的に映画を見せるのでは無理だということである。映画を見て会話表現を身につけるといことが目標であれば、ある一定の時間をこの映画の授業に費やさなければならない。半年、1年といった長いスパンで、シラバスに映画を定期的に見せることを取り入れなければ、こうした授業は効果が出ないだろうということは想像できる。

3. 高等学校での動画使用とその問題点

3.1 年間計画のなかに動画を入れる場合

新年度が始まる前に計画し、時間割を作る時期に、その授業に動画を見せることができる教室（LL教室など）をつけて時間割を作るよう教務にお願いしなければならない。時間割に組み込めるかどうかは特別教室（LL教室、視聴覚室など）の使用頻度にもよるので、学校によって異なる。

高等学校で1年間の授業を通して動画を使い、授業を行っているという具体例を私自身は知らない。最近では、新しいタイプの単位制の学校（注1）や、CALL 教室が導入された学校が増えているので、そのような学校で試みられているかもしれないが、あまり多くはないと考えられる。その理由の1つは、毎時間動画を使って授業を行うためには、新年度が始まる前に計画し、時間割を作る時期に、その授業に動画を見せることができる教室

高校の現場では動画をどう使う？

(LL教室など)をつけて時間割を作るよう教務にお願いしなければならない。私の前任校の場合で考えると、前年度の2月までには計画しておく必要がある。公立高校では、人事異動もあり、また校内人事の確定が2月から、遅いと3月始めにずれ込むこともあり(都道府県によって異なると思うが)、来年度の人事や持ち科目が不確定な中で、そのような授業を早い段階で計画するのが難しい場合が多い。時間割に動画を使える教室を押さえて授業を組めるかどうかは、特別教室(LL教室、視聴覚室など)の使用頻度にもよるので、学校によって異なる。

3.2 投げ込み教材として動画を利用する場合

自分が動画を使いたいクラスの全ての授業時間で動画を利用できる場所(LL教室、視聴覚室など)を確保できるかどうかの確認が必要。一クラスでも確保できないクラスがある場合、あきらめざるを得ない。

投げ込み教材として動画を利用する場合は、それだけで何か英語の力をつけるということとは考えにくい。たいていの場合は、動画を利用することで、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高めるといった動機付けの部分で利用されることが多いのではないだろうか。

投げ込み教材として利用する場合も、動画を見せる場所が確保できるかどうか、自分が教えているクラス全てに、同じ機会を提供できるかということが一つ問題になる。単位制などの学校で、教員一人が一つの科目しか持たないような場合は、視聴覚教室やLL教室を押さえやすいが、多くの全日制の学校では、一人の教員が一つの科目を3クラス、4クラス持っている場合があり、自分がそのクラスの授業がある時に、動画を見せる教室が空いているとは限らず、私自身は、一クラスだけしか場所が確保できず、動画を見せることを断念したこともあった。

4. 高等学校での動画利用の具体例

4.1 授業内での活動のフィードバックとして

動画というと、映画のDVDや海外のニュースやドラマといった番組を録画して見せることを想像される方も多いと思うが、私が今まで生徒に見せた動画で一番多いのは、生徒の活動を撮ったビデオである。

前任校の外国語コースに設置されていたLL演習や異文化理解といった科目で、生徒に発表形式の授業をさせた時は、ビデオを撮るようにしていた。これは、記録や生徒へのフ

ィードバックのためでもあるが、ビデオを撮られているという緊張感を持たせるのにも役立つ。スキット、ロールプレイ、ディベート、プレゼンテーションなどで撮ったビデオは、編集などは時間がなくて十分ではないが、途中を飛ばし早送りしながら、とりあえず見せるようにしている。生徒と一緒に見ながら、この班は、アイコンタクトができていてよい、原稿を見ないで自信を持った話しぶりでよい、よく準備しているなど、よいところをほめながら見る。また、生徒に、“What are their good points?”と質問すると、“Eye contact!”、“Big voice!”、“Easy to understand”といった返事が返ってくる。

こうしたフィードバックが功を奏していたのかどうか、今となっては調べることができないが、確実に発表の回数を重ねるごとに良くなっていた。特に3年生の最後の発表となると、自信を持って英語を話し発表するグループも出て、教師としては感無量である。

4.2 Penguin Readers の読解のあとで映像資料を見せる

2006年度第8回「TALK TIME」で、資料の提供をいただいた柴田真由美教諭の実践である。外国語コースの1年生の授業で、5単位ある英語Ⅰの週1時間を Penguin Readers の読解に使っていた。1学期は E.T. (Level 2)、2学期は Apollo 13 (Level 2)、3学期は Martin Luther King Jr. (Level 2) を使用した。各学期末に、読んだ本の元となった映画や映像を CALL 教室および視聴覚教室を利用して3回に分けて鑑賞した。定期考査後の特別時間割の中で動画を見せたため、あらかじめ教務部において、各クラスの時間数を合わせ、教室を確保することができた。以下、柴田教諭が、一クラス分ではあるが、Penguin Readers に関する映像資料を見た生徒の意見をまとめたものである。このような形で映像を利用するのも一つのフィードバックの形であろう。

<生徒の声>

1年〇組（外国語コース）に挙手制によるアンケートを実施（38人出席）

Q1 映像資料を見た方がいいか。

Yes 38人 No 0人

Q2 映像資料を見た方がいい理由について。

- ・映像を見た方が中身をよく理解できる。（複数回答あり）
- ・見たいから。
- ・本を読んで想像した内容と合っているか確かめたいから。

高校の現場では動画をどう使う？

Q3 映像資料を見る方法としてふさわしいものはあるか。

- ・本を読む前に見た方がいい。
- ・本を読む前と読んだ後に見た方がいい。
- ・宿題として読んできた範囲を、毎回の授業内で映像として見る方がいい。

Q4 読みたい本はあるか。

- ・ディズニーなどのストーリー性のあるもの
- ・赤毛のアン

5. 結び

以上、少ない経験であるが、高等学校で実際に行われている動画の使用例と、その際の問題点について考えてきた。現段階では、年間シラバスの中に動画を組み込み、動画によって英語力を向上させる授業というのは、多くないのではないだろうか。CALL 教室が都立高校にも導入され、利用できる学校が多くなっている。また、動画を使って学習するためのソフトも開発されており、利用したいものも少なくない。しかし、そのための準備にかかる時間、教室の確保といった問題も避けて通れないのが実情である。

しかし、フィードバックとして利用する動画は、単なる動機付けとして動画を見せる授業より、有効であるように思われる。多少手間隙はかかるが、長い目で見ると、投げ込み教材で使い、生徒の関心を高める以上の効果があるのではないだろうか。動画の利用については、まだまだ可能性がありそうだ。

注

1. 東京都の場合は、総合学科、単位制、チャレンジスクール、エンカレッジスクールなどがある。筆者が現在勤務している学校は、定時制総合学科のチャレンジスクールである。

「新しいタイプの高校における成果検証検討委員会報告書」教育庁報 No. 528 より

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/soumu/choho/528/page3.htm>

参考文献

柴田真由美 (2007)「英語 I (b) における映像資料の活用について」2006 年度第 8 回 TALK

【TALK TIME】レジュメ

松岡博信 (2006)「映画を見て会話表現を身につけよう DVD の効果的な使い方」『英語教育増刊号』 55, 9, 42-44.